

17 危機管理

進捗状況報告

学内の施設整備・改善については、耐震診断の調査結果にもとづいて、順次、建物の耐震補強工事を行っており、また引きつづき、使用箇所のアスベスト対策工事を施している。

危機管理に関しては、非常時の迅速な対応のために、上ヶ原キャンパスに学内非常通報システムを設置した。あらたに設置されたセキュリティセンターで、これを監視・対応するほか、センターは学内の巡回警備を行って緊急時に備えている。危機時における情報連絡網の整備、および広報体制の一元化はおおむね実現されているが、今後、危機全般に対応するために全学的な管理体制を整備することは課題としてのこされている。

2007年には全国的な麻疹流行にともなう対応が焦眉の課題となった。関西での流行が懸念されるとただちに、ひろく学生に感染注意を喚起し、5月末には麻疹問題対策本部を学長の下に設置した。その後、感染者が報告されたが、2週間の全学休講措置を取ることで、さらなる感染拡大を効果的に阻止することができたと判断している。その後も対策本部を中心に麻疹問題に一元的に対応できる体制が機能している。

学内第三者評価

麻疹発生への対応等は適切であったと認められるが、その経験を今後の危機管理にどう活かすのかを明確にすることが望ましい。また危機に対する迅速な情報伝達は発生の把握は心がけられているものの、責任の所在及び対応の意思決定とその伝達方法が必ずしも明確ではない。特に曖昧な情報への対応や防犯カメラの問題等については、単に組織の管理責任という意識ではなく、関西学院が教育の現場であることの認識を踏まえた危機の把握と対応の意思決定が望まれるところである。